

日本経営管理標準(JMS: Japan Management Standard)とは

誕生の背景

1990年代の“失われた10年”で成長を足止めされ、加えて欧米からのマネジメントに振り回されていた20世紀末。我が国の成長を支えてきた、現場で実践され続けているよいマネジメント、暗黙知に目を向け、変えざるべきもの、変えるべきものを整理し、中部発、日本発で、経営管理全般に関わる標準を生み出そうという志のもと、JMSは誕生した。

目 的

マネジメントに関わる自己革新能力の醸成・強化により、我が国産業・ものづくりを復興する。

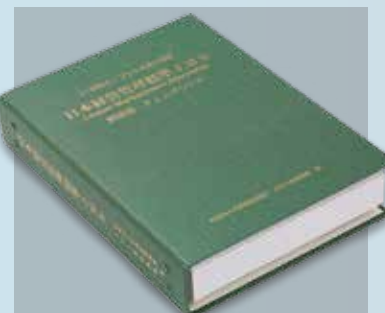
目 標

未来に向けて勝ち残るためのマネジメントの指針作り。

成果物

JMS解説書チェックシート (2001年)

1999年、トヨタ自動車(株) 蛇川忠暉副社長(当時)の発案に、日本を代表する多様なタイプの15社が集結し、約1年半の歳月をかけて制定したマネジメント標準。これを、機能7項目(経営管理、人材、品質保証、原価、環境、安全、財務/収益)とプロセス7項目(開発、生産技術、購買仕入先管理、現場管理と改善、設備保全、製造品質、営業力)に再構成し、樹形状に展開された約400に及ぶ第3分類項目について解説しまとめたもの。地道で愚直な管理行動を促進する記述は、優良企業の現場で実践されている英知であり、現代でも十分通用する内容となっている。(頒布価:5万円(税別))



「当たり前のこと」実践豆知識(全7巻) (2006年~2015年)

JMS解説書に著された経営管理項目は、派手さも外連味もない、我が国のものづくりの現場で実践されてきた、いわば「当たり前」のこと。その当たり前が、環境変化の中で次第に疑わしくなっているのではないかと、という危機感から、今一度、「当たり前」を愚直に実行しているマネジメント、さらには優れたマネジメントを自社の「当たり前」にするべく知恵を絞り、汗をかいている事例にあたり、まとめた小冊子集。図や写真を多用し、管理者が日常的に手にしてもらうことを目指し制作されている。(頒布価:各500円(税別))



JMS推進機構とは

JMSが完成した後、その普及と発展進化のために再集結し、活動を推進する母体。当初の制定企画企業以外にも趣旨に賛同し加わった企業も名を連ねる。理事会と企画委員会、そして今回立ち上げるワーキングからなる。ワーキングの立ち上げにあたり、次の会員企業経営者各位に「準備委員会」として参加、ご協力いただいた。

朝日産業(株)/近藤機械製作所
ダイセー倉庫運輸(株)/中央工機(株)/鳥羽工産(株)
錦見鋳造(株)/日電精密工業(株)/本多プラス(株)

(50音順)

JMS推進機構理事会役員

理事長	トヨタ自動車(株)	常務役員調達本部長	西村 祐
理 事	イビデン(株)	代表取締役副社長	児玉 幸三
	NECプラットフォームズ(株)	取締役執行役員常務	森山 慶一
	オーエスジー(株)	代表取締役社長兼CEO	石川 則男
	太平洋工業(株)	代表取締役社長	小川 信也
	(株)デンソー	専務役員生産革新センター担当	下川 勝久
	日本ガイシ(株)	代表取締役会長	浜本 英嗣
	日本車輛製造(株)	代表取締役専務取締役	柘植 幹雄
	矢崎総業(株)	W/H生産管理室生産助成センター長	石神 明
	ヤマハ発動機(株)	執行役員パワートレインU副ユニット長	丸山 平二
	リンナイ(株)	執行役員生産本部長	石川 文信
専務理事	中部産業連盟	専務理事	小川 勝美

(敬称略・社名50音順)
(2018年2月現在)

参加のお申し込み、入会についての
お問い合わせはこちらまで



一般社団法人 中部産業連盟
中産連

一般社団法人中部産業連盟 JMS 推進機構 事務局
〒461-8580 名古屋市中区白壁三丁目12-13(中産連ビル3階)
TEL(052)931-9825(直通) FAX(052)931-5198

<https://www.chusanren.or.jp/jms>



組織の力で大きな技術変化を果たし
小さくても勝てる競争力を手に入れる

中小ものづくり経営者が集い 研ぎ合う活動 JMSワーキング

第1期参加メンバー募集のご案内

特長

- ・強い志ある経営者同士の相互研鑽
- ・独自の競争力を持った中小経営者からの刺激・学び
- ・各分野でものづくりを牽引する大手メーカーの第一線級マネジャーとの交流
- ・中部発ものづくりマネジメントの“標準”JMSのツールから得る、強み弱み、経営のヒント・気づき



一般社団法人 中部産業連盟
中産連



Link the Next
～共創、そして共創～

“当社だけの競争力”獲得に向けた一歩を、共に踏み出しましょう！

「ニッポンのものづくりに元気を取り戻し、再び我が国産業の牽引役に」という目的のもと、2001年に誕生した日本経営管理標準(JMS:Japan Management Standard)。今、その目的を果たすために必要な、新たな課題を設定し、再始動します。

グローバル競争も激しさを増す中、ニッポンのものづくり再興の力ぎを握るのは、競争力を持った「強い中小ものづくり」です。中小にとっての競争力は、明確化した強みを、限られた経営資源を駆使して、独自のモノ／サービスにして、顧客に提供することに他なりません。大きな技術変化を伴う競争力の獲得には「やり抜く力」が必要になります。これまでの「自社の当たり前」を超えた、新たな視点とアクションが求められるのです。

現在JMS推進機構は、中小ものづくり企業が自己革新能力を醸成するために有効なマネジメントポイントの探索を目標に活動しています。今回その取組の一環として、共通の志ある中小ものづくり経営者にご参集いただき、設定したビジョンを追求するアクションを支援する「JMSワーキング」を立ち上げることとなりました。

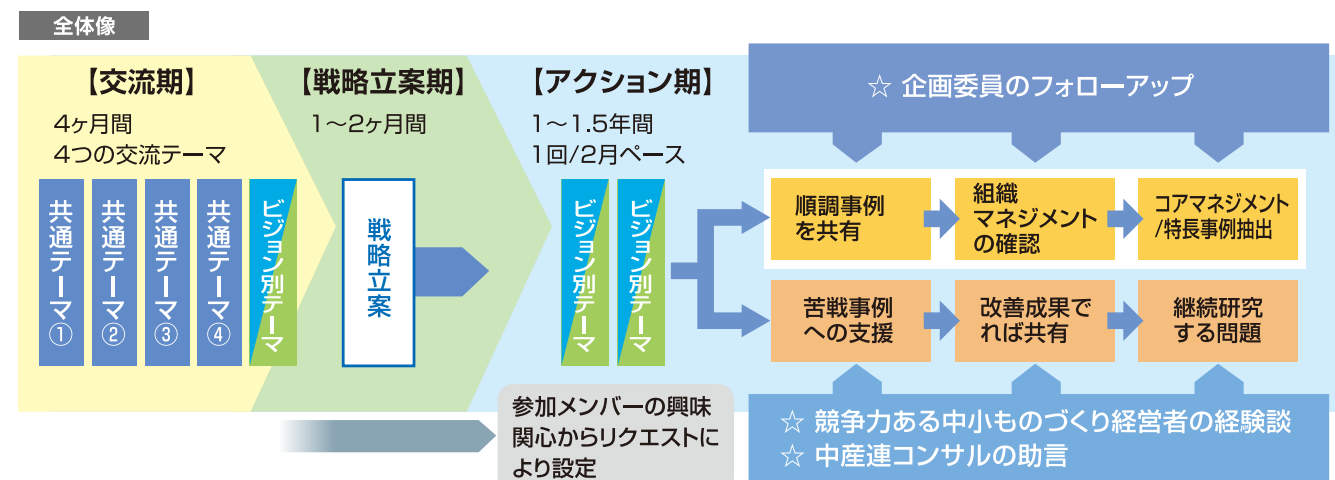
今採用する若手が定年を迎えるときに、何を作っているのか。その時、彼らが胸を張ってものづくりに携わることができる企業を目指して、経営者自身が行動を起こしましょう。

競争力獲得を果たすためには、これまでの延長線から大きくシフトチェンジしなければなりません
窓を開け、外に目を向けよう！

ものづくりの同志の相互作用で個の限界を超える JMSワーキング を立ち上げます

同じビジョンを追求する中小ものづくり経営者の皆様に、課題達成に必要なテーマで交流した後、技術戦略の実践をフォロー支援するワーキングプログラムです。

- 目的** 掲げたビジョンを追求するアクションを通じて、マネジメントの自己革新能力を磨きます。
- 特長** 実行の定期フォローでは、同じく取り組む企業経営者同士の相互交流だけでなく、独自の競争力でキラリと光る中小ものづくり経営者や、大手メーカーの第一線マネジャーであるJMS推進機構企画委員会メンバーによるフォローアップ、中産連コンサルタントの助言により、実践推進に拍車をかけます。



2つのビジョンを設定

（どちらかを選択して参加いただきます。非選択ビジョンの交流テーマにオブザーバ参加は可能）

Vision 1 自社商品開発

- 高収益が期待できる領域の開拓
- 従業員の士気、モチベーションUP
- リスク分散
- 経営者としての夢

テーマ例	内容
商品企画・開発再考	強み・シーズの活かし方、潜在ニーズと商品コンセプト など
機能面からの価値向上	機能開発手法としてのVE再確認、VEの基本理解 など

Vision 2 超サプライヤー

- 「当社にしかできない」only 1に
- 顧客に頼りにされる技術提案
- 常に新たな技術変化に挑戦し続ける

テーマ例	内容
ロードマップ	コア技術の再確認、定めるべきゴール、技術変化の道筋 など
生産技術力向上	強い現場力をさらに高める生産技術、生産プロセス再考 など

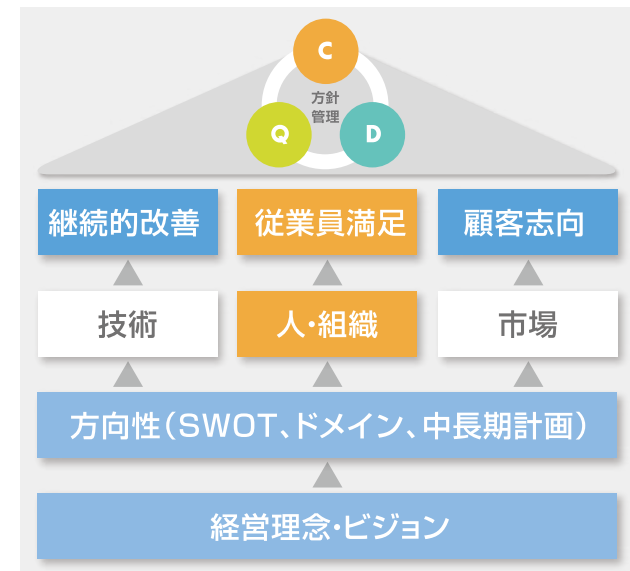
※各ビジョンでの交流テーマは、共通テーマで交流する中で、メンバーの要望により決定していきます。上記はあくまで一例です。

共通テーマ

共感キーワード

- 自社の「強み」再確認、方向性の明確化
- マネジメントの自己革新能力の強化で、小ぶりでも強靱な組織に
- 常に考え、学習する人材、変化し続ける組織を生む風土づくり

テーマ	交流内容
経営理念/ビジョン	経営理念/ビジョンの意味、他社事例、経営者の率先垂範行動
方向性～中長計・方針管理	強みの研究、他業界研究、修羅場の経験談 など
組織作りと運営	組織作りと環境整備、考え続けさせるための仕掛け など
実践事例研究	開発事例、提案事例紹介



参加要領

- JMS推進機構の会員であること
- 従業員規模約20～300名の製造業
- 経営者自身が参加（少なくとも役員以上。取組テーマ実行に権限持つこと）

この活動に参加頂くために、是非、JMS推進機構にご入会ください！
年会費 5万円(税別)

入会特典

- ・JMS「成果物(P4参照)」1セット進呈
- ・機構主催イベントご招待(2名様/1イベント)
- ・会員専用ホームページ閲覧(JMSチェックシートのDLが出来ます)